

第2回新宿区文化芸術振興会議（第6期）議事要旨

■開催日時 令和3年3月30日 午後2時から午後4時まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第3委員会室

■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 川北彰子 松井千輝 的場美規子

大野順二 中島隆太 大和滋 岡室美奈子（欠席 飯田直子）

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く)

事務局 菅野文化観光産業部長 小泉文化観光課長 原文化観光係長 加藤

■議事の進行

1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の進行について、次第に沿って進行することを確認した。

2 議事（要旨）

- (1) 前回会議の内容について
資料1に基づき、前回会議（令和2年11月17日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。
- (2) 調査審議事項について
第6期調査審議事項について専門部会の案の説明があった。
- (3) 意見交換
第6期調査審議事項について、意見交換を行った。
本日の意見交換の内容について、専門部会で論点整理を行い、次回会議で審議することを決定した。

【以降、意見交換】

- ・やはりコロナの問題、オンラインの問題についての議論が出てきたと思っている。
- ・東京都の調査にあるように、60%ぐらいの方が通常は見に行っていたのが、見に行かなくなった影響はかなり大きいと思う。私どもも調査をして、大体、多いところだと70%から80%、収入が減少しているという大きな数字が出ていて、主な劇場、芸術団体あるいは文化施設もそうだが、大体60~80%の間で推移している。
- ・他の業界を見ても、飲食がいろいろ言われているが、実は通期で見ると、2019年、2020年ベースで30%ぐらい減少というデータも最近出てきているので、文化芸術を見なくなった。また、去年の3月から6月はほとんど開催されていない。以降も、都の調査のとおり、見に行かなくなったデータが出ている。
- ・その影響をかなり受けてきていることがあり、いろいろな対応がされ、新宿区もいろいろな対応していると思うが、そういう状況の中で唯一、配信という形で、新たな取組

が加わってきたことで、前回は議論になったのだろうと思っている。

- 都の調査を含めて、動画配信がどういう効果を持つかについて議論をしていき、まだ模索中であるが、分野によってはある程度補完的な効果、ライブとエンタメの補完関係というようなことは言えそうだ。

- ポップスシステムの配信がかなり見られていることがあり、経済的な補完という意味では、ポップス界隈はある程度効果が出てきているが、投下コストに比べて回収はほとんどないようなところがある。長期的に見ると、プロモーションやアーカイブ的な効果はあるようには見えてきている。

- 遠くの人にはなかなか見に来られないなどのことがあるので、アーカイブやプロモーション的な効果で、そういうものをアップしていくようなことがある。

- この機会に動画での取組の基盤をつくっておくことはあるだろうと思う。

- 前期の議論の情報発信を引き継いで、美術館の取組とライブパフォーマンスの取組では大分違うと思うが、去年から今年にかけてある程度の施設が何らかの取組をして、遠い人、見られなかった人、もっと言えば、相乗効果を発揮できる場になればいいのだろう。いい取組が少しずつ積み重なっていけばいい。

- 継続的なICTの活用をどう各文化団体・施設が取り組んでいくかという検討は、かなり意味があると思う。

- ライブの場合は、ちゃんとした位置付けを考えつつやっていくほうがいだろう。長期的に考えていくためにも今回議論したほうがいいと思う。

- もう一つの議論は、コロナが収束するのは楽観的に見て秋、来年ぐらいからお客が戻ってくるかどうか。都の調査にあったように、新規感染者が数十人程度にならないと行かないという層がいるのはちょっと驚きだったが、今上限50%でも、お客は50%も入らない。ものによるが、平均すると20%か30%しか入っていない。

- コロナが劇場内でうつるのではないかという危惧がある。今、この世界でいろいろな調査をやっており、劇場内は換気がかなりよく、再開以降、劇場内でクラスターは一切出ていないという報告もあるので、一番大事なのは、劇場内は安心だというイメージをきちっと伝えていかなければいけないということ。

- コロナ後やオリンピック後を考えて、池袋は再開発がほぼ終了して文化的なイメージである。渋谷が今再開発中で駅や周辺が変わっていく中、やはり新宿区は新たな新宿を、今の時代にふさわしい、何かイメージを新たにつけ加えていくような検討が必要ではないか。

- 新宿中央公園のイメージがかなり変わった。桜が咲いて、子どもたち、家族連れでにぎわっているし、いろいろな施設もできたことを考えると、今後新しいイメージの新宿、東口とは違ったイメージづくりにちょうどいい素材ができつつあるのではないか。このことをどう方向づけていくか。

- 大きな再開発がまた駅前であると同っており、その中にいかに文化芸術を位置付けてもらうかというようなことを、この場を通して新宿区全体にアピールできるといいと感じており、中身をふくらませていければと思う。

- コロナ禍で舞台芸術界は本当に大打撃を受けた。その中で2つの大きな事業を2020年度に行った。

- 一つは文化庁の収益力強化事業の一環として、EPADが事業を受託し、演劇博物館が再委託をされて、舞台公演の情報検索特設サイトをつくった。
- 日本の、今やっているものだけではなく、これまでの舞台公演がいかにか豊富な蓄積があるかを知っていただくサイトで、多くの人々に演劇の素晴らしさを知っていただき、コロナ収束後を見据えながら劇場に行っていたらこうというもの。
- もう一つは「失われた公演」で、コロナによって中止、延期になった舞台芸術のチラシ、ポスター等を収集し、あわせて中止になった公演の主催者などの方々の無念のコメントをいただき、オンラインで展示をしている。
- そのように、公演が中止になってしまった人たちの努力をなかったことにはしないというか、演劇史に空白をつくらないという気持ちで取り組んでいる。
- 幾つか大きな問題を感じており、1つは高齢者の問題。演劇博物館でも、例えばZoomのウェビナー等を使ったオンラインイベントをやっているが、高齢の方はなかなか参加しにくいということがある。
- コロナ禍の中で誰も取りこぼさず文化芸術に触れていただくために、高齢の方々の支援をどうするかというのが非常に大きな問題と感じている。
- かなり丁寧なマニュアルを作り、ここをクリックすれば携帯電話でもつながりますというように丁寧な説明をするが、なかなか入ってきていただけないとか、入っていただいてもウェビナーならいいのだが、例えばZoomとかだとミュートにすることが分からないとか、いろいろなことがある。
- そういうことを、例えば区のイベントなどのときに、どのようにサポートしていくかは大きな問題である。
- あと、外国人の方にどうやってイベントに参加していただくか。周知も含めて、非常に大きな問題と感じており、このコロナ禍の中で様々な格差が露わになったということもあるかと思う。
- そういう格差の中で、余裕のある人だけではなく、本当に幅広い人たちに文化芸術に触れていただくにはどうしたらいいか。非常に難しいとは感じている。
- 高齢者や外国人の問題を申し上げたが、総じて言えば弱い立場の人たちを、どうやって区として支援をして、文化芸術に触れていただくような環境づくりができるかということも非常に問題だと思う。
- 歌舞伎町が夜の街と名指しされ、コロナ禍の諸悪の根源であるかのようになってしまったところがあるが、ドキュメンタリーのクルーが、歌舞伎町の人たちが頑張っってコロナを乗り越えようとしていることを取材した番組を作っている。
- 歌舞伎町を単なる夜の街と位置付けるのではなく、やはり1つの新宿の文化ではないかと思うので、コロナ禍で本当に打撃を受けたところをどう支援していくのか。それを新宿区の文化として何かきちんと位置付けて救うようなことができないのかということも少し考えたいと思う。
- あとは、高齢者の方々が、例えばオンライン配信イベントとか、そういうところはどうやったら参加できるか。
- そういう支援も必要だし、例えば、国が文化芸術を支援する様々な施策を打ち出しているが、申請がものすごく難しい。例えば緊急事態舞台芸術ネットワークなども申請支

援の窓口などを設けているが、そういう様々な支援に人々がアクセスできるような、支援のための支援みたいなものも今、誰かがやらないといけないと感じている。

- ・新宿区は、外国人もたくさん抱え、夜の街として名指しされたような場所も抱え、様々な人々を抱えている。

- ・文化芸術が決して余裕のある人々だけのためのものではなく、本当に様々な人に行き渡るようなものとして、オンラインというのは非常に有効だと思うが、どうすると多くの人がそこにアクセスできるようになるか。その視点が重要ではないかと考えている。

- ・ICTについては、コロナ禍でアクセスしようという人たちがすごく増えたと思うので、今はある意味すごいチャンス。今まではこんなものを見なくても、現場に行けばいいという人たちがいっぱいいた中で、今はそうじゃない状況をむしろチャンスと捉えて、こういうものをいかに区として活用していくか。

- ・多分こういうものが発展していったときにいろいろな情報が、このフィールドミュージアムの中にも動画があるが、このようなものが例えば学校教育の現場の中で使われるようになっていくとか、やはり発展形はあると思う。大きな、例えば東京以外の他県の人たちが新宿の文化に対するセミナーとかをやるときに、このようなものにアクセスすれば、1つの題材として学習ができる。

- ・ICTはボーダレスなので、すごく可能性が高いと思う。今だからこそ、着手していくチャンスではないか。近視眼的に捉えるよりは、もう少し大きな目で捉えて、このようなものを作っていくという志を持ってほしいのではないかというのが1点。新宿の魅力というのは、多分、いろいろなものが混沌として、しかもぎゅっと凝縮して新宿駅周辺にある。

- ・競合する山手線の駅がいっぱいある中で、新宿の強みは何かという中で、区全体に広げる視野を持ちながら、新宿駅を中心として核をつくっていくようなことは、それが発展して、都市計画なり、プランディングというところにつながっていく。

- ・海外の人が来るにしても、新宿であればこれがあると。そういう意味で、西新宿地区の公開空地みたいなものを持つところは、多分ほかの駅にはない。このようなものを区全体の文化の発信に生かしていくとか。

- ・歌舞伎町はいろいろな顔を持っていて、今、映画館がたっているが、実は若い人たちの間では、もう5年ほど前から流行っている、リアル脱出ゲームという大変人気のゲームができるICTスポットがあり、それも今風で言う文化芸術になっていくものだと思う。

- ・そういう意味で、すごく幅広いものを新宿という地区が持っている。今コロナ禍なので、区全体に広がる核みたいなものをつくっていくトライアルができるいい時期だと思う。

- ・2つ目の駅周辺については、将来的にいろいろな意味で発展していくというところに生かす。それは多分、そういうスペースを持つ新宿の強みではないかと思う。

- ・オーケストラ界にとって、この1年は大変ではあったが、公的補助金や、個人の方々から心配していただき、今、全国30以上のオーケストラが、立ち行かなくなることはなっていないようだ。

- ・多分、最高益の収入、収益を上げているオーケストラももしかしたらあるかもしれな

いが、やはり今期は皆さんに助けられたという思いが強い。来期からが大変だと前々から言われていたが、本当に大変だろうというところで、いろいろな企業にお世話になっているが、来期の寄附は勘弁してくれというところが多々出てきており、寄附については、方向性を変えなきゃいけないと思っている。

- ・オーケストラもインターネットを使って配信したりとか、この1年いろいろなことをさせていただき、ようやくチケットレスが動き出した。スマートフォンでチェックすると入れるみたいなどころまで来たので、これからもどんどん変えていかなきゃいけないなど。

- ・チケットも自分でもぎって入るというのではなく、だんだんチケットレスに向かっていけると思っている。

- ・東京都のホール・劇場等の鑑賞者意識調査を拝見して愕然とする思い。本当に都内新規感染者が数十人程度にならないと行かないといったら、ほぼ無理だろうという気がするし、50%、60%近くの方はまだ行かないという。

- ・自治体によって収容人数の上限にばらつきがあるが、100%でも、どんなに頑張っても6割、7割。実際に6割、7割のチケットが売れても、実際来場される方は5割がもう最高レベルみたいな感じになっており、皆さん1席おきに座るのに慣れてしまっているから、ある所にピッと固まっていると、すごく不快な感じをする。自由に動いてもいいとは思いますが、ただ、そういうことがあり、それに慣れてくると怖いなどというのが少しある。

- ・フィールドミュージアムのホームページを新しくすることで、できれば英語表示もできたらと思う。

- ・コロナ禍はまだ1年は絶対に続くと思う。この業界は本当に耐え忍んでいかないと、途絶えてしまうと再建するのは大変なので、新宿区も一生懸命やっていたが、私どもも頑張っていきたいと思う。

- ・6期の調査審議事項のICTの活用について、この1年間でデジタル媒体を使ったことを振り返ると、YouTubeライブでクラシックコンサートを聞いたり、落語とか、J-POPのライブなどを聞いたりした。Instagramのライブも、トークライブを聞いたり、講座を見たりとかしていた。

- ・私立の小中学校で、例えば、連絡帳や提出物のやりとりがGoogleクラスルームとロイロノートを使っていた。授業がZoomで、リアルタイムで行ったとか、あとは先生がつくったものをYouTubeで配信するような形をとっていた。学校行事もほとんど中止になったが、文化祭などはZoomで行えた。

- ・子どもの習い事に関しては、例えばLINEを使って先生とのやりとりをチェックしていただいたりとか、Zoomも使ったりとか。音楽教室では、ヤマハはSYNCHROOMがあり、それをオンライン授業として推奨されたりとか。あと、ヴァイオリンを習っていた方から、FaceTimeは比較的音がよく、習い事として成立するような話も伺った。

- ・先月、世界で3億5,000万人ぐらい登録があるフォートナイトというゲーム中でバーチャルコンサートをやっていて、自分がゲームのアバターとして参加しながらアクションもできたりする感じで、また違った形の参加の仕方ですごく楽しいと思った。

- ・オンライン化・デジタル化という中で、参考資料3が非常に参考になり、特に16ページの「オンライン配信の良いところ」。「新型コロナウイルスを気にせず見られる」「自分の予定に合わせて見られる」「遠方の公演も気軽に見られる」「自分の好きな環境で見られる」の上位4つは、非常に共感できた。
- ・普段ならすぐに劇場などに足を運びたいが、コロナを気にして、去年はオンライン講座やウェビナーなどで家で過ごすことが非常に多かったが、参加したい企業のウェビナーは、大体16時、17時開催のものが多く、会場に伺うとしたら参加できない時間帯だが、オンライン配信で、育児や家事をこなしながら聞くことができた。
- ・先月、「脚本を残し未来に語り継ぐこと」というシンポジウムが開催されたが、ちょうど日曜日の1時半から5時までだったと思う。これも、会場で行われたとしたら参加できなかったが、オンライン配信があり、非常に有意義な時間を過ごせた。
- ・会場参加と同時に、来年以降もオンライン配信をするよう検討していただければと思う。調査の18ページに「新型コロナウイルスが収束してもオンライン配信を続けてほしい」という方が31.8%もいたので、こういった思いもつないでほしいと思った。
- ・17ページの「オンライン配信で不満を感じる点」について、1位の「臨場感、一体感に欠ける」55.1%という意見、本当に同じ思いをしている。
- ・去年はオンラインクラシックコンサートを鑑賞したのだが、生で、劇場で聞くまでには満足感がなく、仕方ないかという思いで聞いていた。
- ・今年に入ってから、新宿文化センターの「ドラゴンクエスト」のコンサートや、パイプオルガンのコンサートに伺ったところ、やはり会場に響き渡る音は全く違って、久々に生で本当にいい音楽を聞いたなという思いで感動したし、オンラインだと家ではながら見してしまう。
- ・会場に行くと、もう自分の世界に入り込んで集中できることで、改めて劇場やホールに行く意義も非常に感じた。
- ・イベントを中止にするくらいなら全てオンライン配信に切り換えることもあるかと思うが、今の国の方針からすると、今後はオンライン配信と会場参加型、こういったものを合わせたハイブリッドな方法というのが非常に重要になってくるかと思う。
- ・高齢者の方も取りこぼさないということも非常によく分かるので、その両方が選べるような、やはりハイブリッド型のものを今後検討していけばいいかなと思っている。
- ・まずICTの活用について、短期的なことと長期的なことの話ができればいいと考えている。
- ・まず短期的なことで、今リアルで起こっていることを考えながら少しずつ進めていくことが必要かなと思っている。
- ・うちは大学生が2人いて、面接などは全てFaceTimeを使い、授業もZoomを使ったりしている。ICTは本当に活用されていて、私もウェブで会議を行うことも多くなり、いろいろな文化活動に関して拝見することも多くなってきた。
- ・実際にICTを活用してオンラインでいろいろなものに参加をしたときに、やはり場所を移動しなくていいのはすごく楽だと思った。本来なら遠いと支度も時間がかかるし、時間的にも参加が難しいものも、ポチッとその一瞬でつながれるということは、とても

魅力を感じた。

- ・一方、デメリットとしては、長時間のものだと特に集中力が全くなって、一応聞いていたり見ていたりするが、頭が別のことを考えたりする自分に気付いた。

- ・もう一つは、臨場感がやはり全然ないなど。これは調査にも書かれていたが、会場に行ったときの空気感というのは、そのリアルな場面でしか感じられない、本当に貴重な体験なのだが、それがすごく減ってしまい、とても残念だなと感じた部分があった。

- ・どんどんICTを進めていくことも大事だが、やはりリアルのこともすごく大事にしていかなくてはいけない。また、いろいろな人にとって、誰でも平等に提供できて、受け入れられなくてはならないと考えているので、一方に振れるのではなくて、両建てが大事なのではないかということ、短期的なことと考えている。

- ・もう一つの長期的な面で、新宿区は、来年度から小中学校にパソコンが1人1台導入されると伺っている。それを使い、文化芸術を何かしら教育として取り入れるのがいいのではないかと考えた。

- ・子どもと話をしている、今どきの子なので、いわゆるフェスやポピュラーなコンサートとかはすごく好きで行く。一方、全く見ないわけではないが、演劇やクラシックコンサートは、興味が無いわけではないが、あえては行かないかなという。

- ・どうしたら行くのと聞いてみたら、やはり取っ掛かりがあることが大事かなと言って、それは何かと聞いたら、小さい頃にもっと学校とかでいろいろなことを興味深く教えてもらえれば、もしかしたらもっと興味を持てたかもしれないと言っていた。

- ・基本的にいろいろなことにチャレンジさせたいと思ったので、いろいろなところに連れて行き、コンサートも行ったし、いろいろなことを経験させたが、学校で友達と一緒に体験することのほうが、共有とか共感というところでいくと、小さいときに余計刷り込まれるようだ。

- ・新宿区はいろいろな体験がある中で、美術館にも行くことがあると思うが、行った記憶は残っていても、実際に強烈な印象があったかということ、それは全くないねという話をしてきた。

- ・どんなことがあったら印象に残ったのかと聞いたら、説明してくれるのはうれしいが、小学生だったときに面白おかしく説明してくれるとすごく印象に残ったと。

- ・懇切丁寧に教えてくれたのはうれしかったが、あまり印象に残らないのだよねという話を2人ともしていたので、今、映像と合致することができるので、せっかくパソコンを取り入れるので、何かいろいろなサイトと関連づけて事前学習、それから実地で見学して事後学習という形で結びつけていくことで、将来的に文化芸術に子どもたちももっと携われるような環境が出てくるのではないかと考えている。

- ・2つ目、豊島区のトキワ荘ミュージアムに行った際に、周辺にいろいろな施設があり、ここに行くということが見られますよ、こっちに行くということがあるよと、すごく丁寧にスタッフの方が説明してくれた。

- ・新宿もいろいろなところがあって楽しいが、もっと連携がとれるとよいと考えている。あるところに行ったら、ここには行きましたが、ここではこういうことがあるよなんていう話をしてくれると、新宿区全体にいろいろなことが行き渡るのではないかと考えているので、そちらの話ができればいいと思っている。

- ・この1年間、職場でいろいろウェブを使ったセミナーの配信とかをやっていたが、リアルでやる場合とウェブで行う場合、違いはあっても、別物として両建てでやっていくのがいいのかなというのを最近すごく感じている。
- ・ICTを使うことによって、これまで取り込めていなかったところの人たちも多く取り込めるようになったし、場所、時間の制限がなくなったということは、もっと裾野を広げる可能性につながるかと思っている。
- ・このアンケートにもあるように、不満の大きいのが、音声が悪い、途中で途切れるとか、画質が悪いと。これは、往々にして手持ちの機材とか環境、通信環境によって左右されることがすごく多い。今、無料だったり定額だったり、いろいろなライブが楽しめるようになってきているが、ハード部分にお金を出して整えて、その上でライブをもっと楽しむという方向に今後行くのかなという気もしている。
- ・いろいろな団体が気軽にライブ配信などを行うのであれば、新宿フィールドミュージアムのホームページも新しくなったので、こういうところにプラットフォーム的なものがあると、自主団体的なところもうまくライブ配信などの活用につなげられるのかなという気がした。
- ・審議事項の2つ目の新宿駅周辺地域の文化芸術活動の連携だが、新宿中央公園が新しくなり、非常に明るい感じで、こちらでいろいろな活動をするのもいいのかなとすごく感じている。こういったところをうまく活動の場として広げていくことは、ぜひやっていていただきたいと思う。
- ・ただ、ライブ的なものを中心になると、逆にそれは新宿であるということのアイデンティティもなくなってきてしまうので、そういったアイデンティティを持たせて発信していくということも考えていかなければいけないのかと思った。
- ・新宿区もコロナの影響でITを活用する中で、IT文化みたいなものが1つ形になってくるのかと思ったが、同時に、実際に現場へ行って見る。特に絵画などは、流される映像だけで鑑賞するのは全く違うと思うので、それに近づける努力はされるが、そういう今まであった現場という考えが大事だということが再認識されるのではないかと思う。
- ・コロナが終わった後に、ITの活用というものと、現場を盛り上げていくこと、両方が議論されるようになるのではないかと思う。
- ・現在の次の問題だが、フィールドミュージアムの冊子は今後作る予定はあるのか。公式サイトと両方やっていただきたい。
- ・新聞の文化面を見ていたら、新宿にある日本を代表する将棋センターが3月末で終わる。コロナと同時に、ITによって、将棋を行かないでやる人が増えてきたことも原因らしい。こういう文化に寄与したものは、いろいろ新聞や何かに載るのだろうと思う。
- ・事務方でそういう新宿関係の記事の切り抜きはしているのか。あると大変いいが、そういうものを集めて記録しておくことも新の文化振興を考える上では必要ではないか。
- ・（事務局） フィールドミュージアムの冊子について、来年度、前期と後期に分けて、ガイドブックを紙媒体でも作成する予定である。切り抜き等については、区政情報課で、行政に関するものについては行っている。文化観光課としては、文化関係、観光の関係、その他の身近な行政情報については、切り抜きを行っている。また、新宿フィールド

ミュージアムのホームページは英語と、中国語は繁体、簡体と、韓国語で表示される。

- ・新聞の切抜きなども記録として残してあれば、文化の継続性のために、かなり重要なことだと思う。もう1つ、文化観光に関するものの分野だが、将棋とか碁とか、そういうものも文化の中に当然含まれている。ということで文化の幅も、絵画、美術とか、音楽は当然、他の大衆文化なり生活文化もやはり重要なものである。

- ・（事務局）切抜きは、保管している。また、将棋や囲碁なども文化として考えている。

- ・専門部会でも、まずコロナとその影響をどう考えるのか。また、それを克服していくのか。ビルド・バック・ベターという言葉もあるが、コロナの前に戻るという後ろ向きなことではなく、コロナでこれまでなかなか進めることができなかった課題というのが浮かび上がり、それを進めざる得なくなった状況もあるということも踏まえて、ある意味、ピンチをチャンスに変えつつ乗り越えていく。そのようなことを考える必要があるだろうということで一致した。

- ・その先では、たくさんの課題を扱うことはできないので、絞り込みをしたという状況。

- ・絞り込みの1つは、やはりどうしても避けて通れないのが、バーチャルの世界をどう広げていくのかということ。

- ・かつてはバーチャルとリアルは、競合するようなイメージがあったかと思う。バーチャルで見ればリアルに来ないのではないかとか。

- ・これは国際的にも研究が進み、ある意味バーチャルで初めての、エンカウンターとよく言うが、文化に触れることにより興味を持ち、リアルの世界に入ってくるというようなことが割とはっきり見えてきた。

- ・今、ループル美術館も、コレクションを全部無料で公開することによって、コロナ後にまた年間1,000万人とお客さんが来るようにしていく方向性を打ち出している。

- ・課題はあるにせよ、このバーチャルをポジティブに進めていく方向性。特にバーチャルは、割とリアルよりコストがかからないこともあるが、実はかかる部分もある。そのコストを課金で回収することができにくい部分もあるので、それをどのようにインフラ整備をしていくのかも今後の議論かと考えている。

- ・2つ目は、まちの魅力ということで、今回は新宿駅周辺の連携の促進。第5期の議論の中の、特に団体の連携。施設・団体の連携に着目して、リアルで新宿の文化を発信し、魅力を創出していくことにより、その環境、地域という物理的な環境とソフトのシナジー効果を高めていく1つの起点として、新宿駅周辺を今回やってみよう。

- ・それが次に、例えば神楽坂や、他のところに行くというような形で展開できるのではないかとということで、新宿駅周辺の活動主体の連携促進というテーマに、一応落とし込んだというのが今回の案になっている。

- ・バーチャルで裾野をぐっと広げて、その中でリアルのほうに参加していただく、あるいはバーチャルに引き続いて参加していただく。いろいろな形のメニューができることによって、総合的にマーケットが広がる方がいいかなと。

- ・マーケットと括ったが、区民の方々がいろいろな形で、それぞれの地域、時間、所得とか、大体この3つが文化芸術の活動を阻害する大きな要因になるから、なかなかお金のない方は比較的小金を必要としないような形でアクセスをする。少しお金があり、も

う少し臨場感を楽しみたいという支払い意思をお持ちの方は、チケットを買ってきていただく。そういう様々なメニューを広げていくことで、多くの方がそれぞれの状況に合った形で文化芸術に参加し、鑑賞し、そういう文化的な価値をつくっていくことができるようにしたいと考えている。

- この中で2つ、どうしても気になるところは、アクセスとコスト。アクセスは、お金がないといろいろなことができない。場合によると、ネット環境も可処分所得によって制限が加えられることもある。高齢の方だと、テクニカルな問題でうまくいかないこともあるかもしれない。そういう障害をできるだけ抑えていくにはどうしたらいいのかが1つ。

- もう1つはコスト。無料で配信されればされるほど、投入された発信側のコストは回収できないということがある。東京都の調査にもあったが、対象の母集団が既に鑑賞したことがある方々で、鑑賞していない多数の人たちは調査対象外にもかかわらず、お金を払って見ようという方が少ないことが、結構大きな課題かなと思う。

- だから、リアルでできないならバーチャルでも費用を回収すればいいという議論には、なかなかならない。

- 一方、そういう形でも存在感とか社会的なインパクトを与え続けないと、公的な支援というのは続いていかないのではというところも心配している。

- コロナ後、どう考えても自治体や政府の財政状況はよくはならず、それも数年続くと思われるので、ここはうまく効果的・効率的な運用をして、存在感をアピールしつつ、社会的にインパクトを与えられるようなインフラをどう整備するのかというところが議論の中心になるかと思う。

- なかなか難しいところではあるが、ここでうまく裾野をぐっと広げられると、社会的な意義付けというのが高まるようにも思っている。

- 意外に文化芸術に飢える。公演がないと、やはり見たくなる。去年、横浜でオペラをやったが、満席。オペラで満席って大丈夫かなとか言いながら、みんな行く。

- 兵庫でコンサートもやった。科学的な検証をして、前列2列、ちょっと飛沫が飛びそうだとこのところだけ空けて、あとは全てチケットを売り切った。だから、文化芸術に対する人々の思いとか圧はあるが、うまく実際の団体の運営に結びつけていけるのかというところがポイントかと思っている。

- コロナの状況が分からないし、第4波が来そうなので、非常に苦労はすると思うが、科学的な検証を積み重ねていけば、皆さん理解すると思う。

- 換気が十分にあり、そういうコロナ対策がきちんとなされているということがあれば、お客さんも戻ってくるのではないかと期待したい。

- 実際にICTを使った、つまりバーチャルなものによる芸術との結びつきをどうするか。

- バーチャル、リアルとプラスマイナスで考えたがる。つまり、バーチャルはいろいろと情報はもらえるが、本当の芸術的な感動が分かるか。多分問題は残ると思う。

- 絵画をバーチャルで見るのと実物で見る場合、その辺が音楽ないしは芸術というものの大変面白い問題である。絵画や彫刻はコロナ以前から複製があるが、芸術的な作品が与える感動は、複製も非常に見事なものができるけども、違うのではないかと。

・例えば音楽では、これは複製と言っていいのか、演奏というのが間に入るから、ベートーベンの第九だと言っても、実際にこれはカラヤンのものだとか何とかということで変わってくるし、演奏者によっても随分感動が違って来るだろうと思う。芸術というのは、そういう感性に訴えるというのが非常に多い。

・芸術に関しては、情動的なものも大変重要だから、コロナのためICTによって情報共有、あるいは知識を得ることで芸術に接する。非常に大事なことであり、コロナ後も、そういうツールは芸術文化に生かしていったほうがいい。それはコロナだから仕方がなくてバーチャルに行くのではなく、芸術との付き合い方というものの方法としてである。

・文化もいろいろあり、大衆文化とか、みんなで一緒にライブでワアワアやるのが楽しい。また、その余韻や、みんなで1つにまとまった臨場感そのものが重要ということもあり、やはりリアルなものも捨て切れない。

・ICTは、まさに情報で、こういうことがある、これは誰それがつくったと、知識を伝達してくれる。これは大変優れたツールだが、それも含めて、それと違った意味での、芸術を通しての心の結びつきというようなものは無視できないのではないか。

・大原美術館で、数年前コロナと全く関係ない頃に、若いお母さんが幼い子どもの手を引いて美術館の見学に来られ、お話を伺う機会があった。

・その方がおっしゃるには、実は20年ほど前、自分も親に連れられて大原美術館に来た。そのときは何が何だかちっとも分からない。自分にとっては子どもの頃、遊び場みたいなもので、それ以上に、少し違う何か変な場所だなということしかなかった。

・その方が大きくなり、興味があり、優れた作品を見るつもりで、大原美術館に再度来た。そのとき、20年前に親に連れられて来たことが、非常に懐かしいと同時に、自分の心に訴える思い出であったということがあり、子どもも連れて来ましたとおっしゃった。

・子どももやはり5歳ぐらいで、何だかよく分からないみたいなのだが、お母さんは、何も分からない5歳ぐらいのときに美術の現場に来た。そこで、ご家族とのつながり、あるいはそこにいた人々と何か無言のつながりがあった。

・20年経ち、お母さんが、もう一度美術館に来たいというときに、間違いなく自分にとって大事な場所だったということ、そのとき初めて認識してやって来ましたというお話をされて、大変うれしくなった。

・そういう美術館の役割は、もちろんいろいろ作品を見せる、あるいは情報を提供する、解説もすると同時に、そこを直接に訪れる人、あるいはそれが昔訪れた人でもいい。世代を超えて人々の心をつなげる。文化というのは、そういうものだと思う。

・みんなが大切に見たがるのは、知らない作品ではなく、よく知っている作品。よく知っている作品をとすることは、もちろん単に情報としてではなく、そこに自分の思いも込めて、受け継がれてきた人間の心というものがある。それが、気がつかないうちに自分にとって大変大事になる。文化の役割は、そういうものだろうと思う。

・そういう意味での心への無意識の訴え、記憶からも失われてしまったものを蘇らせてくれる大変大きな力だが、これは行政のほうで一体どうすればいいかというのは、また別の問題になる。

・アクセスにコストがかかるが、それをどうしたらいいかというようなことは、行政のほうで考えていただくようにして、芸術あるいは文化というものの持つ意味というのを、このコロナは改めて考えさせてくれたと思う。

・特に東京都の調査結果、大変役に立つが、皆さんの考えというものが、芸術の持っている意味というか、人間にとっての大切なものというのを考え直させてくれるというのが、私の考えであり、今日の皆さんの意見を聞いての感想

・新宿文化センターで収容人数を50%に抑え、席が前後左右も空く状況で、非常にゆったりと自分の世界に浸って鑑賞ができた。あそこの座席はすごく狭く、かなり気になり、席も当たり外れがあたりとか集中できない場合もあり、コロナ後も前後左右1つつつ空けるような席の売り方を、行政にぜひ検討いただければと思っている。

・以上のご意見を踏まえた上で、調査審議事項として資料の2の案のとおりというふうに決定したいと思う。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

・次に向かってということで、芸術団体としては、50%以上でやりたいという意見がある。現状、文化施設等についてはいろいろな基準があり、換気的能力とか、そういうものでかなり換気が徹底されているということで安全だということ。逆に、安全なことを区のほうからアピールしていただいたほうがいいのかと。

・そういう気運を変えていくような働きかけが今後必要になると思っていて、そういう取組をしていただきたい。

・なかなか人が入らないこともあるが、100%でやれる環境が本当はふさわしい。

・芸術団体が施設を借りてやる場合、50%だと赤字という問題があり、経済的に成り立たず、窮地にどんどん陥ってしまう。

・もう1点、可能か分からないが、新宿駅の周辺地域は、西新宿を中心とする開発とか、いろいろな取組がある。取り組んでいる方々の報告とかを聞くような場があってもいいのかなと。その上で議論する機会があると、非常に議論の中身が具体化するのではないかと思う。

・（事務局） どのように情報提供できるかというのが、今、お答えできないが、分かりやすいように資料の配付とか、いろいろな方法を模索していきたい。